

【参考 特別支援学校高等部調査研究資料の構成（全教科共通）】

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

調査対象は、文部科学省作成の「高等学校用教科書目録（平成30年度使用）」に記載されている文部科学省検定済教科書のうち、平成28年度に行われた検定に新たに合格した213点である。

「発行者」には同目録に記載された「発行者の略称」を用い、掲載順は教科書番号順とした。

2 教科書の調査研究

（1）内容（調査結果は「特別支援学校 1」）

「①学習の課題や要点が単元の初めや終わりにまとめてあり、障害のある生徒が、学習の見通しを持ち、要点を押さえた学習ができるか」、「②学習の要点が巻末にまとめてあり、障害のある生徒が要点を押さえた学習ができるか」、「③障害に関わる記述があるか」の三つの観点から調査研究を行い、その結果を数値データとして一覧表で示した。

（2）構成上の工夫

「①文字の大きさが障害のある生徒にとって適切であるか」、「②文字量が障害のある生徒にとって適切であるか」、「③学習のポイントとなる重要語句を文や図・絵・写真等を使って障害のある生徒にも分かるように解説しているか」、「④単元が見開きで構成され障害のある生徒が集中して学べる構成であるか」、「⑤一単元の分量も多すぎることなく適切であるか」の五つの観点から調査研究を行い、その結果を数値データとして「特別支援学校 1」に一覧表で示した。

また、「特別支援学校 2」のその他の欄には、「学びやすさ」（区分や項目のとり方、単元の系統性や順序性、他教科との関連など）、「読みやすさ」（文字間や行間の広さ、難読文字等への振り仮名、文章の長さなど）、「見やすさ」（写真や図絵等の大きさや配列、デザイン性、紙質など）について、障害のある生徒が教科書を使用するに当たり、特筆すべき点を記述することにした。